

第3節 中学3年生

国際理解と平和 ～仮説・検証・考察～

中野和之・中村 忍
澤井祐哉・松本 真一
大矢美香

【抄録】 中学3年生の総合人間科では、「国際理解と平和」を大テーマに11月の広島研究旅行と連動したグループ研究を行う。本年度は、昨年度と同様、戦争を総合的に捉える中で、仮説・検証・考察の過程を踏まえながら、平和のあり方を念頭において研究を進めていくことを意図した。

【キーワード】 国際理解 平和 グループ研究 広島 被爆体験 原子爆弾 毒ガス

1. テーマ 国際理解と平和

サブテーマ 仮説・検証・考察

2. 学年目標、ねらい、伸ばしたい力など

・学年目標

- ア 戦争など、国際理解・平和に関する事柄を学び、国を越えての相互理解や平和の尊さを考えさせる。
- イ 国際理解と平和のため、将来を担う存在としての思考・行動の指針を見つけさせる。
- ウ 築き上げた平和な世界をどうしたら維持できるのか、相互に意見を聞き合うことで深めさせる。
- エ グループ学習を通じて学び合い、相互理解を深め、協力して問題解決にあたる姿勢を持つ。

・ねらい

広島市の被爆被害の問題から、現代の世界が直面する核開発の問題、平和の問題を考えさせる

・伸ばしたい力

- ・現在の問題を認識し、その原因から仮説を設定する力
- ・現在の諸問題の関係性を認識し、整理・分析する力
- ・グループで協力して仮説を検証する力

3. 活動内容

- ・戦争という過去の事実を学び、平和な世界のために、現在何ができるか、また、平和な世界をどのように未来へと繋げていくのか考える。
- ・ダイヤモンドランキングで抱いた国際理解・平和についての興味・関心を、調べ学習や戦争証言者・被爆証

言者の話によって深める。

- ・また、自らが考えた仮説を立て、それを検証し、グループで考察する学習スタイルをもって進めていく。

4. 評価方法と基準

方法

- ・夏休み個人研究のレポート、研究集録、発表時の資料・発言の様子、グループにおける取り組みの姿勢などを観察する。
- ・自己評価、生徒同士の相互評価も取り入れる。

基準

- ・課題に前向きに取り組んだか。
- ・期日を守って課題を提出できたか。
- ・自らが立てた仮説に基づいた検証作業であるか、また、グループでの考察活動が適切に行われているのか。

5. 系統性

・前年度とのつながり

前年度は「生命と環境」のテーマで、命の大切さについて学んだ。本年度は、命の大切さへと繋がる平和の大切さを考える。その際、国際的な視点を持ち、人と人との関わりという視点も持つ。

・「持続可能な開発のための教育（ESD）」との関わり

原爆による被害を受けた国として、同じことが繰り返されないよう、広く世界に働きかけていく必要がある。生涯を通して国際理解・平和に関心を持ち、主体的に考えていけるよう、現段階での小さな興味を、個人やグループで大きな問題へと発展させ、考えの深化を経験させたい。

6. 授業計画

(前期)

回	日	授業内容	使用教室
1	4/9	ガイダンス	
2	4/17	ダイヤモンドランキング 「戦争」をなくすための9つの方法	各教室
3	4/24	事前学習 杉原千畝に関するビデオ視聴	各教室
4	5/8	事前学習 平和に関する考察→テーマ設定 13日遠足(千畝記念館 リトルワールド)	各教室 図書館 PC教室
5	5/22	個人研究発表準備	各教室
6	6/5	個人研究発表会(班ごと5班→各代表一名→代表発表)	各教室 多目的室 社会科室 第3総合
7	7/3	グループ編成 テーマ設定	
		夏休み(国際理解に関するレポート宿題)	
8	9/4	夏休み課題発表会(各グループ内) グループテーマ決定 FW候補地の検討、アポ取り準備	各教室 図書館 PC教室
9	9/25	FW候補地の検討、アポ取り準備	

(後期)

10	10/7	FW候補地のアポ取り開始 平和のリボン作成	
11	10/23	アポ取り完了、依頼状作成、質問事項の確認 事前学習発表会準備	各教室
12	10/30	事前学習発表会 平和のリボン披露	各教室
13	11/12 ~14	広島研究旅行 FW、被爆証言者講話、広島平和祈念資料館、毒ガス資料館	
14	11/20	お礼状送付、検証作業とグループ考察、集録原稿執筆 FW研究発表会準備	各教室 図書館 PC教室
15	12/11	集録原稿下書き完成、FW研究発表会準備	各教室 図書館 PC教室
16	1/8	FW研究発表会	第一総合教室
17	1/22	グループ研究発表会 仮説・検証・考察の準備	各教室 図書館 PC教室
18	2/5	グループ研究発表会 仮説・検証・考察	第一総合教室
19	2/18	まとめ	第一総合教室

7. プレ研究

4月24日、杉原千畝に関するビデオ視聴後、戦争に関する基礎学習を行う。(以下、生徒へのプリントより、以下抜粋)

杉原千畝とアンネフランクに関する問題

- 問1、杉原千畝の生誕地は現在の何県か？
 問2、杉原千畝が最初に赴任したのはどこか？
 問3、杉原千畝が生涯を通じて学習した外国語は何か？
 問4、リトアニアの首都名は何か？
 問5、杉原千畝は何人のユダヤ人を救ったのか？
 問6、アンネ・フランクはどこ都市で隠れていたのか？

問7、アンネ・フランクは強制収容所で病死したが、何歳だったのか？

問8、ユダヤ人を迫害したナチスの中心人物はだれか？

問9、ポーランドでナチスのために殺害されたユダヤ人は何人と言われているか

問10、ユダヤ人からすべての権利を奪ったのは何年か？

8. 広島研究旅行

11月14日(木)

JR名古屋駅 名古屋駅 のぞみ7号 広島駅……

7:50集合 8:35

10:55

広島フィールドワーク-----平和公園 平和セレモニー-----
 11:15 17:00
 宿舎夕食 全体ミーティング 入浴・自由時間 就寝
 18:00 19:20 20:30 22:30

キャンプファイヤー 入浴 就寝
 19:05 20:45 22:30

11月12日 (土)

起床7:00 朝食7:30

記念写真・宿舎出発-----栈橋-----大三島港-----

9:00 9:42 9:55

しまなみ体験プログラム-----記念写真・多々良公園出発-----

10:00 13:20 14:40

福山駅- のぞみ38号 -名古屋駅

15:32 17:31解散

11月15日 (金)

起床6:50 朝食7:20

宿舎-----記念写真-----平和公園散策-----被爆体験講話-----

8:25 8:35 9:30

平和祈念資料館見学-----昼食-----広島出発-----忠海港-----

10:40 12:25 13:10 15:05

大久野島-----毒ガス資料館-----宿舎 夕食

15:00 15:30 16:20 17:40

9. フィールドワーク先一覧

班	研究テーマ	訪問場所	目的
A1	戦わない者たちの戦争	広島県高等学校原爆教職員の会	戦争に行かなかった人たち(子供など)の戦時中の生活を知るため。
A2	呉から見る国際平和	大和ミュージアム	呉が建造した戦艦大和を通して、呉の現状と平和のつながりについて調べたいと思ったから。
A3	原爆の被害と復興	広島市役所	原爆の被害と復興について知り、平和とは何かを探るため
A4	Japan in the world 昔から今を見つめる	広島放射線影響研究所	原爆による放射線の影響について学び、今の日本について考えること。
A5	広島の復興	広島県原爆被害者団体協議会	戦争直後の人々の様子と町の変化を知るため。
B1	国民はなぜ戦争に参加したのか	NHK広島放送局	平和を維持するために、当時の国民の立場を知り、考えていくため。
B2	世界から見た原爆	広島大学平和科学研究所	原爆の世界からの見方の違いを知ることで、平和と外国の文化についての理解を深め、「国際理解と平和」というテーマを深く考える。
B3	兵器と平和	広島平和教育研究所	兵器と平和の関係を調べるため。
B4	戦争の時の教育について	袋町小学校資料館	戦前・戦中の教育と戦後の教育を比較するため。
B5	原爆は何を変えたのか	広島市立大学広島平和研究所	文献では分からないことを聞き、理解を深めるため。

10. 事後アンケート結果にみえる成果と課題

まとめアンケート

1、今年度の総人の学習を踏まえて、「国際理解」のためにはどのようなことが必要だとあなたは考えますか。(複数回答可)

a 外国語の研究 (12%) b コミュニケーション (16%) c 自国に関する学習 (11%) d 他国の文化・社会などに関する理解 (19%) e 中立的な視点 (11%) f 対等な関係 (9%) g 相手への思いやり (15%) h 自己主張・積極性 (5%) i その他 (2%)

2、「平和」を獲得する、もしくは維持するためにはど

のようなことが必要だと、あなたは考えますか。(複数回答可)

a 軍縮・核廃絶 (10%) b 相互牽制・核抑止 (27%) c 相互理解・尊重 (15%) d 歴史学習・反省 (12%) e 平等性 (8%) f 国際的なルール (10%) g 政治・外交力 (8%) h 欲張らず、完璧を求めない (5%) i 平和への願い (13%) j 他者への理解と受け入れの態度 (13%) k その他 (3%)

3、グループの仲間と協力することが出来ましたか。

選択肢 a かなりできた b ややできた c どちらともいえない d あまりできなかった e まったくできなかった

- a (26%) b (51%) c (19%) d (4%)
e (0%)
- 4、グループの中で、自分の意見を出すことが出来たか。
a (15%) b (38%) c (32%) d (15%)
e (0%)
- 5、グループの他のメンバーの意見を聞き、理解することができましたか。
a (31%) b (53%) c (14%) d (1%)
e (0%)
- 6、グループ活動によって、自分のどんな力が伸ばせたと思いますか。
① 現在の問題を認識し、その原因を探っていく力
a (14%) b (63%) c (21%) d (3%)
e (0%)
② 現在の諸問題の関係性を認識し、整理・分析する力
a (41%) b (64%) c (23%) d (3%)
e (0%)
③ 発表・表現する力
a (21%) b (41%) c (39%) d (6%)
e (0%)
④ グループで協力して課題を設定し、その課題を解決する力
a (21%) b (53%) c (19%) d (7%)
e (0%)
- 7、仮説を立てて、研究を進めましたが、結論はどうでしたか。
a 自分たちの仮説とフィールドワークを通しての結論が同じになった (20%)
b 自分たちの仮説とフィールドワークを通しての結論が違っていた (21%)
c どちらともいえなかった (45%)
d 仮説を立てることが出来なかった (13%)
- 8、あなたが自分自身の授業評価をつけるとしたら、どうしますか。A～Cの基準で答えなさい。
A (32%) B (65%) C (3%)

設問1に関して、生徒たちは国際理解に必要なこととして、一番多かったのが、他国の文化・社会に関する理解であり、設問2の平和を獲得するために必要なものとして、相互牽制・核抑止をあげている。アンバランスな選択をしているのが、現在の日本の状況と酷似している。社会意識が生徒の意識に影響を与えているのであろう。

総合人間科の学習としての設問に関しては、協力関係、意見発表、理解とそれぞれ肯定的な結果となっている。また、総合人間科の学習を通して、どのような力が伸ばせたか、の設問については、原因を探求する力と整

理分析する力が伸ばせたと答えている。

今年、初めて取り組んだ、仮説検証型の研究スタイルについては、仮説を立てることができなかった、を初めとして、同じ結論もあり、違う結論にもなるという一つには括ることができないものとなったようである。この事は、多様な社会の仕組みを分析していくことが理系の手法にあてはめることの難しさを物語っている。人間社会は理論では割り切れない存在であることを教員自身が再確認する必要がある。

次に、生徒のアンケート記述の内容を検討する。まず、「一年間の学習を終えて、広島に対するイメージはどのように変化したのか」について、「以前は被害を受けた場所という認識だけだったが、毒ガスをつくる場所があると知って、加害者側としてのイメージが増した」と研究旅行先の設定意図が理解された答えがあった。また「原爆投下地という風にしか思っていなかったが、原爆投下の被害を伝えようとしている強いものを知って」戦争を伝える広島の人々の努力に気づいた答えもあった。研究を通して、今後への課題について、「今回の研究は日本国内に限られたものだった。もし、機会があったらI S問題やウクライナ問題など、現代の世界の問題について調べてみたい」と発展的に捉えている記述があった。さらに、核保有国の原爆被害についての認識や当時の日本政府の上層部の考え方などを知りたいとの記述もあった。戦時報道について研究したグループでは、「報道のあり方がすごく大事だと思うし、国が報道を規制してはだめだと思う」との意見があった。この記述は昨年度のものであり、本稿準備中の7月時点において、現政府に関係する議員による報道機関に対する規制強化発言が行われたを先取りした警鐘となっている。中学生の瑞々しい感性が感じられよう。

総じて、生徒たちは自分たちで課題を見つけ、調べ、話し合い、発表する作業を一生懸命に取り組んでいたと思う。ただ、どんな集団にも、消極的姿勢の生徒がいるのと同様に、あまり積極的に参加しない生徒も存在している。ただ、そうした生徒も集団の引っ張っていく力の中で、学習を進めている。

(文責 中野和之)